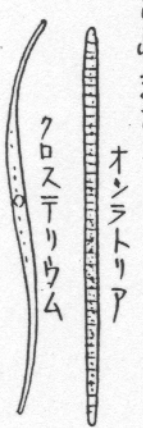
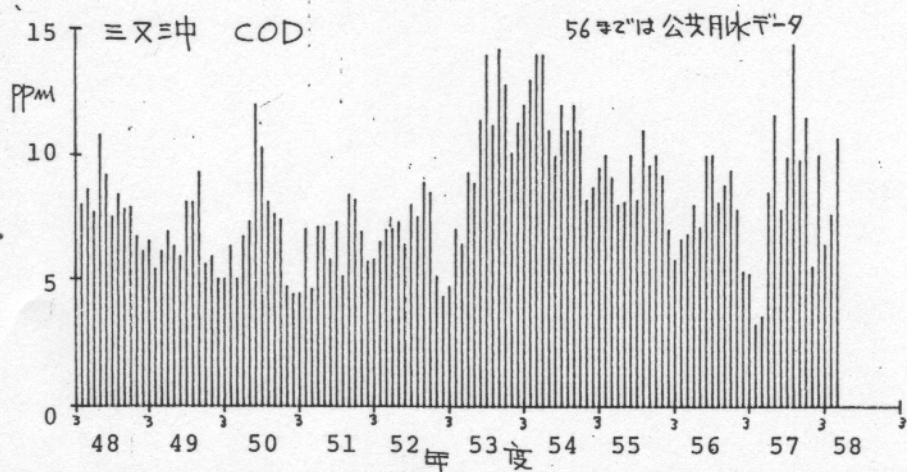


内水試
かわら版
1号
昭和58年
7月1日

今年の水質は
「要注意」!!

昭和48年以降の水質を
COD値で示しました。

昭和48年頃の水質と比べて
最近の水質が冷夏の年で
あっても高い値を示しており
ます。昨年度はCOD値も上昇
しており、前年度水質の悪
化は要注意年となります。
また秋から春にかけて緑藻
のクロステリウムが大量発生し
た年はアオコの発生が多く
なりませんが、今年には藍藻の
オシロトリアが大量発生し
冬期間も透明度が低いまま
春まで続きました。オシロト
リアが冬期間に消失しなかつた



原因の一つに暖冬で水温も例
年より高めであったことが考へ
られます。

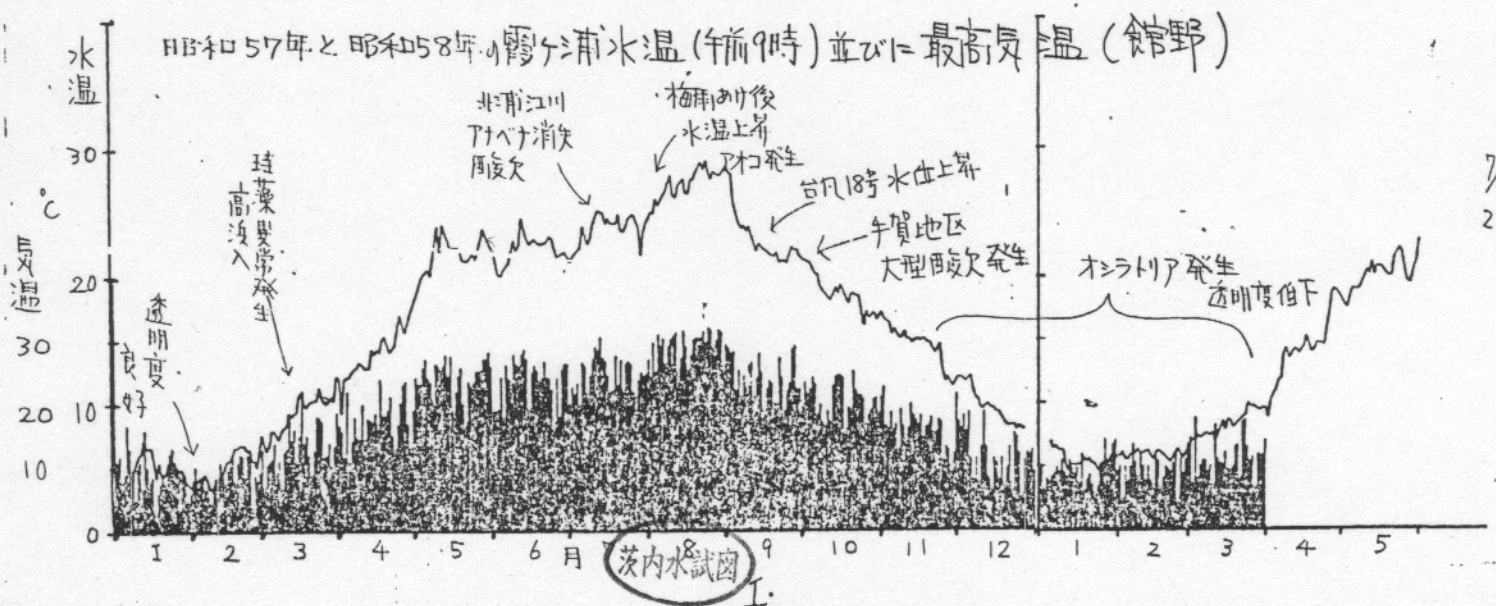
このオシロトリアの発生原因
とクロステリウムとの相異に
ては不明ですが、今年の夏期
水質に悪影響を与へる可
能性があります。

このような前年度の水質条件
のほかに、その年の降雨(特に梅
雨期)とか気温・水温が問題
となります。今年6月中旬の
雨量は内水試で160あり少な

6月の雨量mm
館野

53年	55
54	55.4
55	157.5
56	118.5
57	154.5
58	(160.0)

11年ではありませんが、又水温も
7月1日で22.5℃と比較的低く
アオコの発生は認められますが
酸素条件等は比較的安定
しています。
ただ長期予報では北日本
を除き暑夏としています
から梅雨明け後の気象



7/1
22.5

茨内水試園

条件によって、P・O・Cの大量発生が予測されますので、この点に注意が必要で、西です。

網いけす養殖

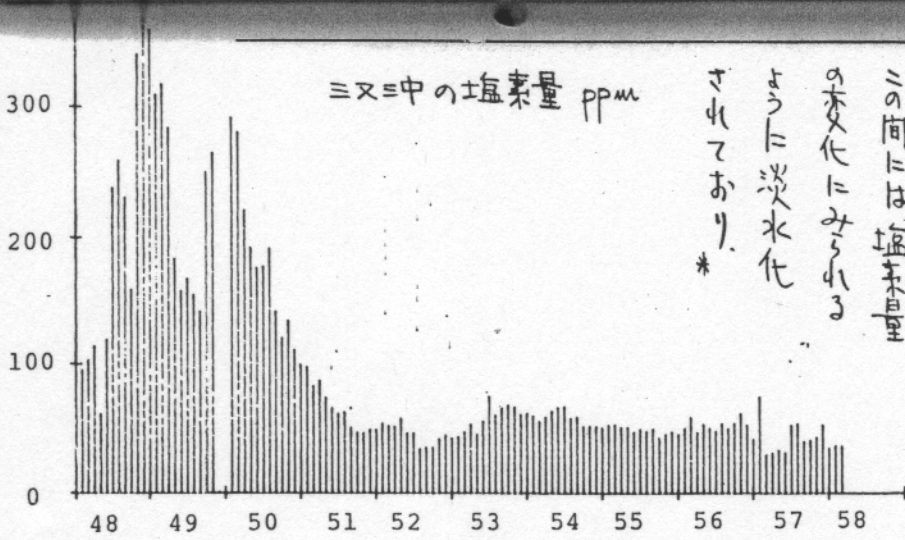
コイの大量発生が起きた昭和48年から10年が経過しました。

この間には塩素量

の悪化にみられる

ように淡水化

されてあり、*



≡又≡中の塩素量 ppm

昭和48年当時とは水質

条件が異なるので、当然と云えますが、溶存酸素量

の変化を測定することが、酸欠マップ知りのために重要で

あることには変わりありません。

内水試とは今年も酸欠観測

と網いけす酸素モニターを例年どおり

実施しますので、協力下さい。

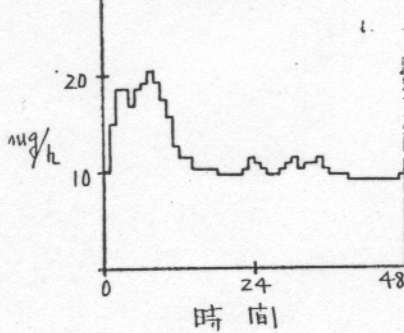
水質が悪化したとき又は水

質の悪化が予知されたときは

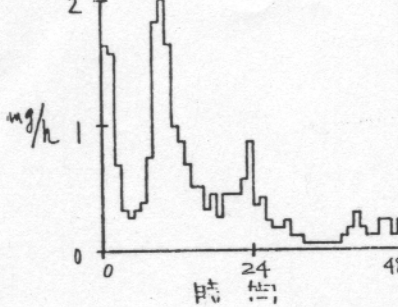
必ず給餌を中止して下さい。

コイの代謝 (摂餌後)

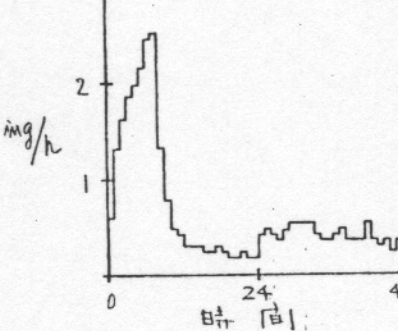
酸素消費量



PO₄-P 排泄量



NH₄-N 排泄量



コイなど魚類が摂餌すると

消化吸収などの代謝が起

り、酸素消費量は平常の

2〜3倍(給餌量で変化)

に高まります。尿とよ排泄

する磷と窒素も摂餌後

は時間代謝が活発になっ

ていますから、水質が悪化

いたします。給餌管理

を行なって下さい。

この酸素消費量の増加は

餌料のタンパク質の含有量

が多ければ高くなります。

実験的にタンパク質をまっ

たく含まない餌料を与へて

みますと、酸素消費量の

増加が1/5ほどに低下します。

このことから、今年度から

使用されている低タンパク

餌料は水質浄化のため

だけではなく、水質悪化

の悪い霞ヶ浦での養殖

餌料として評価すること

ができると思われれます。